

訂正版

今後の県立高等学校の在り方に関する基本方針（案）

[平成25年度～平成30年度]

平成24年2月

鳥 取 県 教 育 委 員 会

目 次

1	はじめに	1
2	検討の背景	2
3	県立高等学校の在り方（平成25年度～平成30年度）	
	（1）基本的な考え方	3
	（2）学校・学級の規模	3
	（3）特色ある学科やコース	5
4	地域と連携した教育の推進	8
5	平成31年度以降の県立高等学校の在り方の検討に向けて	10

◇参考資料

◇今後の県立高等学校の在り方に関する基本方針（平成25年度～平成30年度）
の概要

1 はじめに

平成19年7月17日に、鳥取県教育審議会に「次の時代を担う生徒を育成するための今後の活力ある鳥取県高等学校教育の在り方」について、

- 1 社会が変化する中であって「知」「徳」「体」の育成を大切にし社会の要請に応えることができる魅力ある高等学校教育の在り方
- 2 生徒減少期における今後の高等学校の在り方

の二点を諮問し、平成21年2月13日に答申を受けた。

県教育委員会では、この答申の趣旨に沿って、平成24年度から平成30年度までの県立高等学校の在り方について、関係部局や学校との意見交換、パブリックコメントや鳥取県教育審議会等での意見聴取等を実施しながら検討を進めてきた。

今後、県内の中学校卒業生数が400人程度減少することが予想されること、また、産業構造の変化、生徒、保護者や地域のニーズに応えることのできる教育内容が求められることから、このたび、平成25年度から平成30年度における、

- 1 今後見込まれる生徒数の減少へ対応する適正な学校・学級規模
- 2 社会や地域等のニーズに対応する特色のある学科・コース等

の二点を中心に、今後の県立高等学校の在り方に関する基本方針（案）を作成したところである。

また、答申とは別に、中山間地域の学校などにおいて、地域における学校の果たす役割を再認識し、地域が中心となって学校の在り方を検討するような新たな動きが出てきており、学校の活力を維持し活性化を図っていく上で、地域と一体となって、地域のニーズに応じた検討を進めていくことは、非常に重要な要素になってくる。

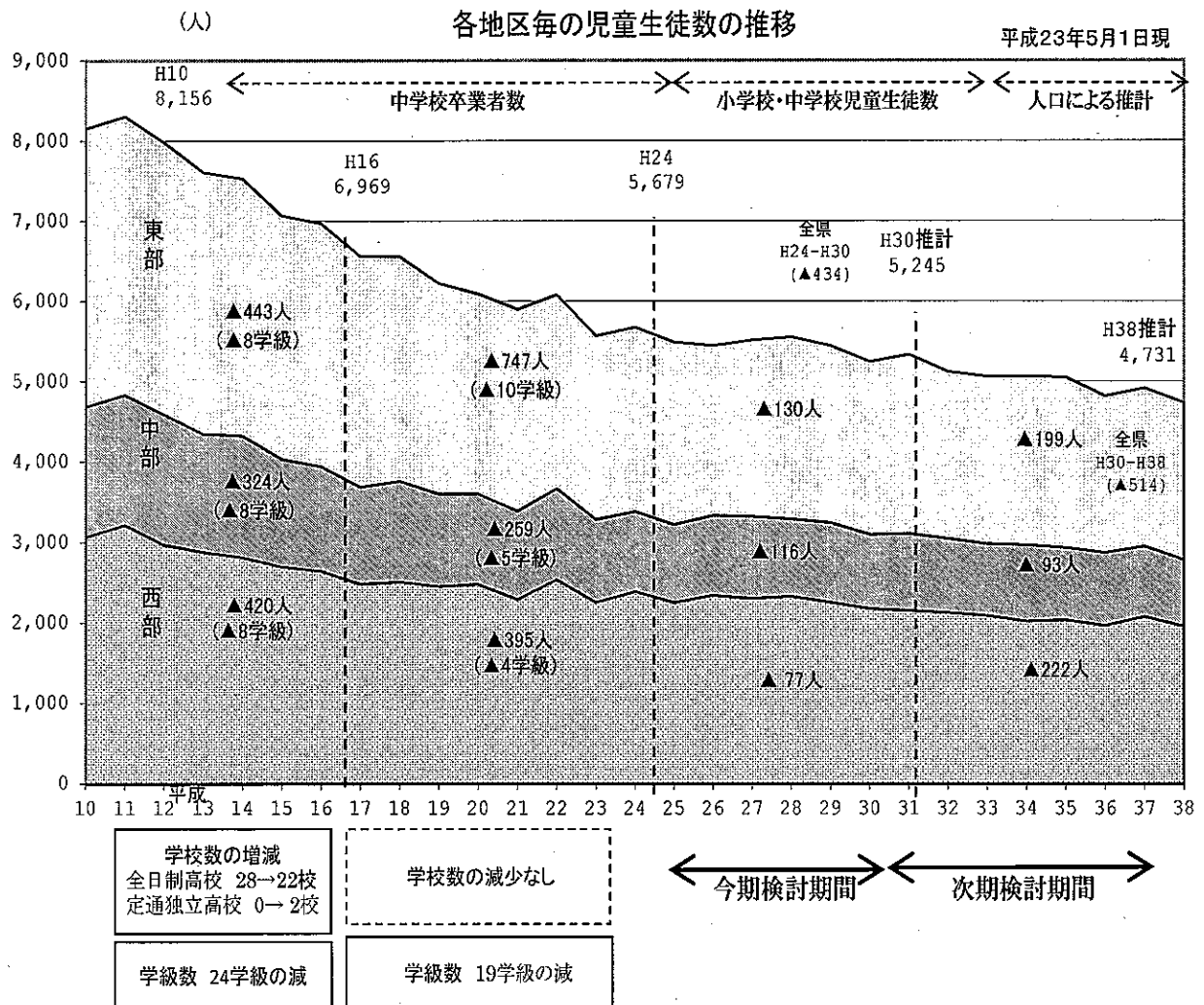
今後、この平成25年度から平成30年度の県立高等学校の在り方に関する基本方針をもとに、関係者等の意見を聞きながら、その内容を具体化・明確化していくとともに、その実現化に向けて努めていく。

なお、平成31年度以降の県立高等学校の在り方についても、平成25年度から平成30年度の県立高等学校の在り方の明確化・具体化と併行して、幅広い視点から意見を聞きながら、早期に検討していく。

2 検討の背景

平成11年度における本県の中学校卒業生は8,000人以上いたが、その後、年々減少を続け、平成23年度末には、約5,600人にまで減少する見込となっている。この期間中、高校の大規模な統廃合や学級減を実施してきたが、今後も、県全体で、さらなる生徒数の減少が見込まれており、平成29年度末における中学校卒業生数は、全県で約5,200人になると想定されている。

また、毎年度推計している卒業生見込み数は、年度が進むにしたがって減少してきており、社会流出が主な要因であると考えられる。したがって、今後の卒業生見込み数は、現在の推計数値よりも少なくなっていくことが予想される。



3 県立高等学校の在り方（平成25年度～平成30年度）

(1) 基本的な考え方

生徒の、自らの目標に向かって主体的に生きていくことのできる力や豊かな人間性の育成を図るための教育の推進が一層重要となってきた状況において、生徒数の減少に伴って学校の小規模化が進む中、教育の質の低下を招くことのないよう、活力と魅力のある高等学校づくりを行うとともに、近年の産業構造や就業構造の変化等に伴い、社会や生徒・保護者等のニーズに応えるための新しい学科・コース等を設置する。

(2) 学校・学級の規模

ア 学校の規模

平成21年2月の答申では、「1学年当たり4学級から8学級程度の規模が適当であると考えられるが、今後も続く生徒減少期にあつては、生徒や地域の状況等も踏まえつつ、より学校の特色を打ち出していく観点から、1学年4学級を下回る場合においても、当面は学校を維持していくことが望ましい。」とされており、その考え方は基本的には尊重する。

ただし、中山間地域等の学校で生徒数の減少が顕著な場合等については、その地域の状況等に応じて、1学年の学級数を3学級未満にする。

また、その学級減に際しては、幅広く地域や学校等の意見を聞きながら対応するものとし、原則として、計画期間中の学校の再編成は実施しない。

[全日制高校の規模（平成24年度募集学級数）]

	3学級	4学級	5学級	7学級	8学級	計
普通科	岩美	倉吉西、 鳥取中央育英	倉吉東、境	八頭	鳥取東、鳥取西、 米子東、米子西	10校
専門学科	智頭農林、 倉吉農業	米子南	鳥取商業、鳥取工業、 鳥取湖陵、倉吉総合産業、 米子工業、境港総合技術			9校
総合学科	日野	青谷、米子				3校
計	4校	5校	8校	1校	4校	22校

イ 今後必要となる学級減

平成30年3月に見込まれる中学校卒業生数をもとに、県立高校と私立高校の募集定員の比率を現在と同程度とした場合に見込まれる平成30年度の県立高校の募集定員数は、平成23年度よりも約320人減少する見込みである。

したがって、計画期間中に8学級程度の学級を減らす必要がある。

なお、具体的な学級減の対象とする学校については、各地域の中学校卒業生数の状況、近年の入学人数、地域の産業の実情等を総合的に勘案しながら決定するとともに、入学人数が募集定員数を満たしていない状況が続く学校への対応も行う。

また、答申では、生徒減少期をきめ細かな指導ができる好機ととらえ、各学校の実情に応じて学級定員を減じるべきとされているが、本県においては、既に、県独自に、専門高校及び総合学科高校において、38人学級を実施していることなども踏まえ、当面は学級の定員数を減じるのではなく、教科ごとの状況に応じた習熟度別少人数授業などに取り組むこととする。

(計画期間中の学級減の予定)

年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30
削減学級数						

(3) 特色ある学科やコース

地域産業の活性化や地域を支える人材の育成を図る観点から、生徒や保護者、地域等のニーズに対応する教育内容を提供する。各学校は、地域と連携しながら教育を推進することにより、特色や魅力のある学校づくりを行う。

また、今まで実施してきた学科改編等についての評価・検証を行うとともに、これからの社会の変化や生徒及び保護者並びに地域のニーズに対応するための新たな学科・コースの在り方について検討する。

ア 環境エネルギーの分野

近年、産業界や地域が、効率的で信頼性の高い次世代電力供給システム（スマートグリッド）社会の実現に向けて動きつつあり、県内外の関連企業の雇用創出が見込まれる中、その社会に対応できる電気、制御、化学の知識を持った人材の育成を図るための学科やコースなどを編成する。

イ 福祉の分野

今後、さらなる少子高齢化の進行に伴い、社会を支える介護福祉士等の福祉人材の確保は、本県の喫緊の課題である。

しかし、県内養成機関への志願者数はここ数年増加しておらず、特に、現役高校卒業生が極めて少ないという現状がある。福祉人材の養成を進めるためには、高校生段階で福祉の仕事への関心や理解を深めることが肝要である。

そこで、幼児、老人、障がい者等を対象とする幅広い福祉マインドを醸成するような学科やコースなどを編成し、誰もが満足できる生活環境の中で暮らせる福祉社会の実現に貢献しようとする意識を高め、将来的に福祉の職場で活躍する人材育成を図る。

ウ 文化芸術の分野

本県の優れた伝統や文化を維持・発展させたり、新たな文化芸術を創造できるような人材や、その文化芸術活動を支える人材を育成するため、まんが、アニメ等を含む各種メディア芸術等、文化芸術分野を学ぶような学科やコースなどを編成する。

エ 既存の学科など

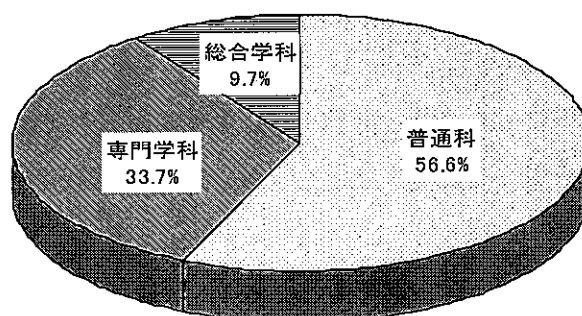
平成10年度から実施した高等学校教育改革により、新たに設置された総合学科高校や単位制高校などについて、その成果と課題について、評価・検証を実施するとともに、既存の学科やコースなどについても、今後の産業構造の変化や地域や保護者等のニーズを踏まえて、評価・検証を実施する。

《参 考》

① 各学科の設置規模

生徒及び保護者のニーズを勘案しつつ、産業界をはじめとする地域社会のニーズに対応する人材を育成するための普通学科、専門学科、総合学科の割合について検討する必要がある。

[県立高等学校の学科の構成割合]



[平成23年度の学科構成による]

② 特色のある高校のタイプの在り方

生徒の幅広いニーズに対応し、生徒の目的意識の明確化や学習意欲の向上を図るために導入された総合学科や普通科単位制、総合選択制、昼間定時制等の新しいタイプの学校・学科についての評価・検証を行い、今後の在り方について検討する必要がある。

タイプ	学校名
総合学科	青谷、米子、日野
普通科単位制	倉吉西、鳥取中央育英、境
総合選択制	鳥取湖陵、倉吉総合産業、境港総合技術
昼間定時制	鳥取緑風、米子白鳳

③ 学科・コースの在り方

今まで実施してきた学科改編についての評価・検証を行い、これからの社会を支える人財を育成する観点で、今後の学科やコース制の在り方を検討する必要がある。

タイプ	学 校 名
普通科系学科	普通学科、理数学科、理数工学科
専門学科	農業学科、工業学科、商業学科、水産学科、 家庭学科、情報学科、福祉学科
その他の学科	総合学科
コース制	八頭、鳥取中央育英、米子東、米子南、米子工業

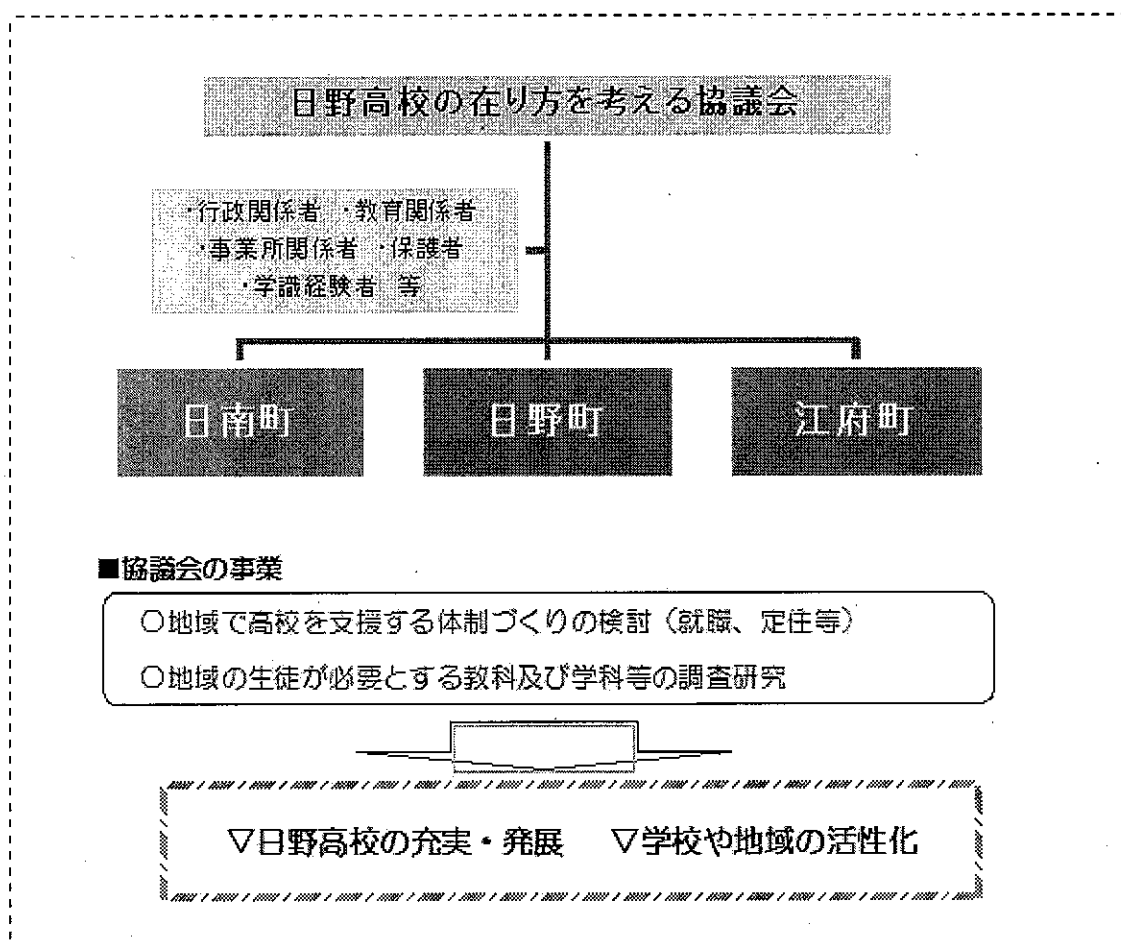
4 地域と連携した教育の推進

本県の中山間地域の高等学校では、生徒数の減少に伴い、入学者が募集定員を満たしていない学校もあり、このまま学校の小規模化が進めば、将来的に学校の存続が危うくなることも考えられる。

他県では、地域と連携した特色のある取り組みを行うことで入学希望者が増加し、学校や地域の活性化が図られているような事例がある。

本県においても、日野高校の在り方を考える協議会が設立され、地域で高校を支援する体制づくりの検討や地域の生徒が必要とする教科及び学科等の調査研究が進められている。

このような中で、今後、例えば、地元市町村教育委員会と連携した小・中・高一貫教育校の設置や、隣県自治体と連携した新しい運営形態の高等学校づくりなどについても、幅広く検討していく。



■■■日野高校の在り方を考える協議会で出された主な意見■■■

〔(第1回)H23.10.14 / (第2回) H23.10.27〕

- 生徒数が減ってきている中、地元からアクションを起こして日野高校のあるべき姿を検討していきたい。
- 日野高校の生徒が増えるということは、中学生やその保護者が来たいと思えるような高校になるということ。中学生へのアピールをどのようにすべきか。
- 今の現状がニーズに合っていないから定員割れとなっている。保護者の意見を聞きながら変えていくのが前提。
- 地域をあげて盛り上げる機運を作りたい。住民から、日野高校は大事なんだと思ってもらえるようなことが大事。
- 少子化になって地域を出て行くのではなく、地域を大切に思い、地域を担っていく生徒を育てる学校になってほしい。
- 前回の高校再編の時は、地域とのつながりがなかった。地域の努力が足りなかった。地域が必要とする教育の場と県の再編の接点がなかった。
- 今回の検討に際しては、地域としてあるべき姿を考え、地域と連携していくことが必要。
- 中山間地域の学校で生き残っているのは、結果を出している学校。進学等の結果を出すことが学校の存続につながる。
- 今までは、「日野高校をとおして地域の人材を残していく」というような話はなかった。日野郡民みんなが応援団みたいな学校にしていかなければならない。
- 日野高校は、日野郡の未来づくりの中核となる学校であってほしい。学校が日野郡にある意味は、高校の発展と地域の発展が一緒になって進んでいかななくてはいけないということ。

5 平成31年度以降の県立高等学校の在り方の検討に向けて

平成31年度以降も引き続き中学校卒業生数が減少していくことから、学校がより小規模化していくことが予想され、学科やコース等の改編等を含めた学校の再編成を行うことも検討していく。

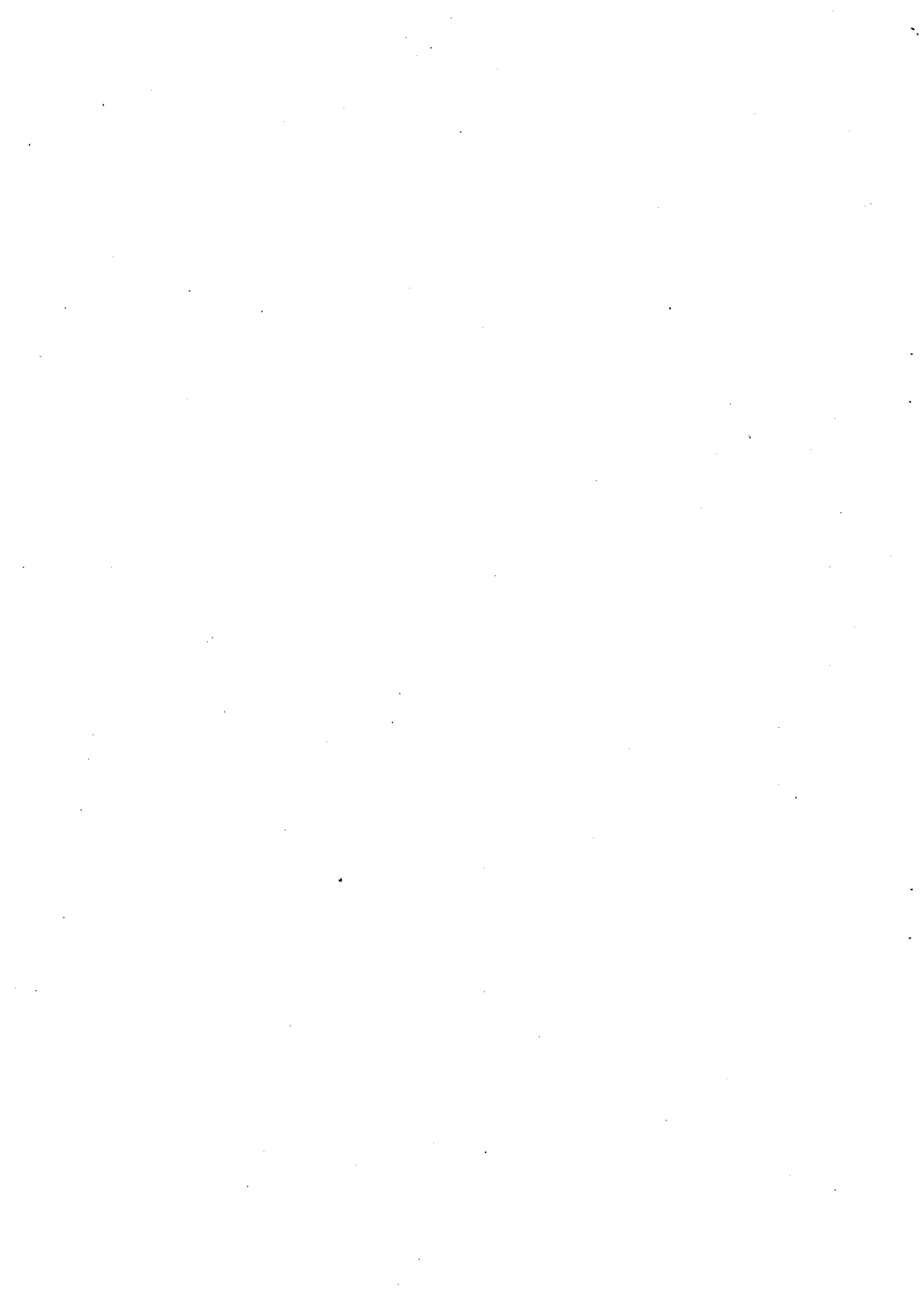
このようなことから、平成31年度以降の県立高等学校の在り方については、来年度以降に鳥取県教育審議会に諮問し、答申をいただきたいと考えている。

県教育委員会としては、答申の内容を踏まえて、なるべく早い時期に、平成31年度以降の県立高等学校の在り方を策定することとしている。

なお、策定に当たっては、地域や生徒、保護者等のニーズを踏まえながら、関係者及び関係機関と十分に意見交換を行いながら検討を進めていく。

参考資料 目 次

- ◇資料1・・・郡市別児童生徒数の推移（平成7年度～平成38年度）
- ◇資料2・・・高等学校教育改革における県立高等学校の概要（平成18年度～）
- ◇資料3・・・平成10年度以降の学級減の変遷
- ◇資料4・・・入学者数の状況（平成21年度～23年度）
- ◇資料5・・・県外の小規模でも活力ある高校の事例
- ◇資料6・・・学級定員の推移（昭和48年度～）
- ◇資料7・・・次の時代を担う生徒を育成するための今後の活力ある鳥取県
高等学校教育の在り方について[概要]（第二次答申：平成21年2月）



郡市別児童生徒数の推移

平成23年5月1日現在

中学校卒業年次 (現在の学年)	中学校卒業者数																							学校基本調査										推計				
	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38				
																					(中3)	(中2)	(中1)	(小6)	(小5)	(小4)	(小3)	(小2)	(小1)	(5歳)	(4歳)	(3歳)	(2歳)	(1歳)	(0歳)			
全国	8,867	8,715	8,521	8,291	8,122	8,156	8,309	7,985	7,612	7,533	7,069	6,969	6,560	6,567	6,223	6,096	5,902	6,083	5,568	5,679	5,490	5,448	5,516	5,555	5,445	5,245	5,335	5,118	5,061	5,064	5,050	4,819	4,916	4,731				
(増減)	△ 152		△ 230	△ 169	34	153	△ 324	△ 373	△ 79	△ 464	△ 100	△ 409	△ 3	△ 394	△ 127	△ 194	181	△ 516	111	△ 189	△ 42	68	39	△ 110	△ 200	90	△ 217	△ 57	3	△ 14	△ 231	97	△ 185					
鳥取県	2,024	1,938	1,906	1,909	1,796	1,874	1,834	1,780	1,730	1,657	1,632	1,712	2,172	2,118	1,938	1,894	1,813	1,713	1,734	1,743	1,608	1,763	1,820	1,795	1,713	1,837	1,674	1,785	1,795	1,843	1,707	1,687	1,683					
岩美郡	379	383	383	429	348	391	390	377	365	340	328	344	156	145	163	137	121	136	99	107	97	110	104	109	96	107	107	109	84	85	83	62	83	92				
八頭郡	777	771	728	745	724	734	750	696	687	686	608	610	390	379	362	309	343	314	318	301	272	238	257	262	236	258	210	208	213	216	193	184	194	178				
高橋郡	323	327	320	301	330	319	299	329	278	301	289	286																										
鳥取附属中	154	159	159	158	154	150	160	157	154	156	154	157	155	154	159	155	154	150	152	152	154	156	72	76	75	74	75	80										
小計	3,657	3,578	3,496	3,542	3,352	3,472	3,473	3,393	3,264	3,213	3,036	3,029	2,873	2,796	2,622	2,495	2,512	2,413	2,282	2,294	2,266	2,112	2,196	2,267	2,202	2,152	2,229	2,071	2,082	2,096	2,119	1,953	1,964	1,953				
(増減)	△ 79		△ 46	△ 190	120	1	△ 80	△ 129	△ 51	△ 177	△ 7	△ 156	△ 77	△ 174	△ 127	17	△ 99	△ 131	12	△ 28	△ 154	84	71	△ 65	△ 50	77	△ 158	11	14	23	△ 166	11	△ 11					
倉吉市	734	728	746	650	680	645	663	637	554	610	520	546	530	558	520	485	497	504	488	435	429	440	459	447	430	413	409	436	403	446	427	427	401	378				
北伯郡	1,015	996	965	1,012	934	975	956	984	917	897	817	750	678	696	629	639	590	605	532	536	515	529	563	518	564	508	549	490	490	508	475	477	478	450				
湯梨原中																				29	32	25																
小計	1,749	1,724	1,711	1,662	1,614	1,620	1,619	1,621	1,471	1,507	1,337	1,296	1,208	1,254	1,149	1,124	1,104	1,134	1,037	1,000	976	994	1,022	965	994	921	958	926	893	954	902	904	879	828				
(増減)	△ 25		△ 49	△ 46	6	△ 1	2	△ 150	36	△ 170	△ 41	△ 88	46	△ 105	△ 25	△ 20	30	△ 97	△ 37	△ 37	△ 24	18	28	△ 57	29	△ 73	37	△ 32	△ 33	61	△ 52	2	△ 25	△ 51				
米子市	1,849	1,793	1,776	1,653	1,708	1,607	1,777	1,578	1,581	1,510	1,441	1,479	1,436	1,477	1,478	1,485	1,434	1,542	1,380	1,482	1,417	1,483	1,473	1,487	1,471	1,403	1,393	1,401	1,383	1,306	1,409	1,349	1,436	1,356				
境港市	541	518	521	448	481	461	471	480	411	421	398	364	410	377	376	402	355	386	333	358	330	351	363	336	330	317	283	300	295	298	264	281	294	288				
西伯郡	728	709	675	654	650	671	624	602	559	615	580	533	453	461	405	398	335	436	369	413	333	356	377	418	367	366	392	351	344	353	294	282	287	274				
日野郡	260	300	272	266	251	253	269	229	238	214	223	203	135	129	130	132	120	124	121	88	102	88	85	82	81	86	80	69	64	57	62	40	56	32				
北斗中	83	93	70	66	66	72	76	82	88	53	54	65	45	63	63	60	42	48	46	44	66	64																
小計	3,461	3,413	3,314	3,087	3,156	3,064	3,217	2,971	2,877	2,813	2,656	2,644	2,479	2,507	2,452	2,477	2,286	2,536	2,249	2,365	2,248	2,342	2,298	2,323	2,249	2,172	2,148	2,121	2,086	2,014	2,029	1,962	2,073	1,950				
(増減)	△ 48		△ 227	69	△ 92	153	△ 246	△ 94	△ 64	△ 117	△ 52	△ 165	28	△ 55	25	△ 191	250	△ 287	136	△ 137	94	△ 44	25	△ 74	△ 77	△ 24	△ 27	△ 35	△ 72	15	△ 67	111	△ 123					

(注1) 平成22年以前は、3月卒業者数。
 (注2) 平成23～25年は、平成22年5月1日現在の中学校在籍者数。真玖羅中は米子市に含まれている。
 (注3) 平成26～31年は、平成22年5月1日現在の小学校在籍者数。
 (注4) 平成32年以降は、市町村の推計による。
 (注5) 平成17年以降は、市町村合併後の新しい郡市のものである。

【資料2】

高等学校教育改革における県立高等学校の概要（平成18年度以降）

高等学校課

[全日制課程]

学校名	平成17年度の状況		18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	平成24年度の各高等学校の状況	
	学科名	小学科・コース名								大学科	小学科・コース名
鳥取東	普通⑦ 理数①	普通⑦ 数①								普通⑦ 理数①	普通科⑦ 数科①
鳥取西	普通⑧	人文科学コース④ 自然科学コース⑤		普通⑧ [人文科学④] [自然科学④]		普通⑧ (コース廃止)				普通⑧	普通科⑧
鳥取商業	商業⑥ 英語②	商業⑥ 国際経済① 情報管理② 英語②		商業⑥ 英語①	商業⑥ 英語学科募集停止		商業⑥			商業⑥	商業⑥ 商業科⑥
鳥取工業	工業⑤ 理数①	工業⑤ 機械① 電気① 制御・情報① 建築環境① 都市環境① 理数①			機械① 電気① 制御・情報① 建設工学① [土木]① 理数①				工業⑤	工業⑤ 機械科① 電気科① 制御・情報科① 建設工学① (コース廃止) 理数①	工業⑤ 機械科① 電気科① 制御・情報科① 建設工学① 理数①
鳥取湖陵	農業② 工業② 家庭① 情報①	農業② 食品システム① 緑地デザイン① 電子機械① 電子電気① 人間環境① 情報①		食品システム① 緑地デザイン① 電子機械① 人間環境② 情報科学①				食品システム① 緑地デザイン① 電子機械① 人間環境① 情報科学①		農業② 工業① 家庭① 情報①	総合選択制 食品システム科① 緑地デザイン科① 工業① 電子機械科① 人間環境科① 情報科学科①
青谷		総合④								総合④	[設置系列] 人文学、国際学、健康文化、情報デザイン、環境
岩美	普通④	文理コース② 健康福祉コース①	普通③ [英語①、情報①] [英語①、数学①]			普通③ (コース廃止)				普通③	普通科③
八頭	理数① 国際① 普通⑧	理数① 国際英語① 総合コース⑥ 体育コース①						普通⑦ [英語④、情報①] [英語④、情報①]		普通⑦	普通科⑦ (総合コース④、体育コース①、 探究文科コース①、探究理科コース①)
智頭農林	農業③ 家庭①	園芸科学① 森林科学① 環境科学① 生活デザイン①		園芸科学① 森林科学① 生活環境① 家庭学科募集停止						農業③	園芸科学科① 森林科学科① 生活環境科① } 80
倉吉東	普通⑥	普通⑥						普通⑥		普通⑥	普通科⑥
倉吉西	普通⑤	普通⑤		普通④						普通④	単位制 普通④
倉吉農業	農業④	生物生産① 園芸① 環境科学① 環境土木①						生物① 食品① 環境①		農業④	生物科① 食品科① 環境科①
倉吉総合産菜	工業② 商業② 家庭① 情報①	機械システム① 電気システム① 会計システム① 情報処理システム① 生活デザイン① マテリアル技術①			機械システム① 電気システム① ビジネス① 生活デザイン① マテリアル技術①			工業② 電気① ビジネス① 生活デザイン① 情報①		工業② 商業① 家庭① 情報①	総合選択制 機械科① 電気科① ビジネス科① 生活デザイン科① 情報科①
鳥取中央英	普通④ 体育①	普通④ スポーツ科学①	普通⑤ [英語④、情報①] 体育学科募集停止			普通④ [英語③、情報①]				普通④	単位制 普通科④ (普通コース③、体育コース①)
米子東	普通⑧	生命科学コース① 普通コース⑦								普通⑧	普通科⑧ (普通コース⑦、生命科学コース①)
米子西	普通⑧	普通⑧								普通⑧	普通科⑧
米子		総合④								総合④	[設置系列] 国際学、健康文化、情報デザイン、経営、健康・フ
米子南	商業④ 家庭①	流通会計① 情報処理② 社会科学① 生活文化① 環境文化コース 調理コース	会計ビジネス① 情報ビジネス① 情報システム④ 社会科学① 生活文化① [経営・調理]			ビジネス情報③ 生活文化① [経営・調理]				商業④ 家庭①	ビジネス情報科③ 生活文化科①(環境文化コース・調理コース)
米子工業	工業⑤	ロボット工学① パワーエレクトロニクス① コンピュータラボ① 環境テクノロジー① 環境デザイン①	機械① 電気① 情報電子① 都市環境① 建築①							工業⑤	機械科① 電気科① 情報電子科① 都市環境科①(建設コース・環境化学コース) 建築科①
境	普通⑥	普通⑥						普通⑥		普通⑥	単位制 普通⑥
境港総合技術	水産② 工業② 商業① 家庭①	海洋① 食品① 機械① 電気電子① ビジネス① 福祉①	海洋① 食品① 機械① 電気電子① ビジネス① 福祉① 福祉科を福祉学科に改編					海洋① 食品・ビジネス① 機械① 電気電子① 福祉① 商業学科募集停止		水産② 工業② 福祉①	総合選択制 海洋科① 食品・ビジネス科① 機械科① 電気電子科① 福祉科①
日野		総合③								総合③	[設置系列] 進学、音楽、アグリライフ、福祉・健康、 情報・ビジネス(平成17年度より)

[定時制課程・通信制課程]

学校名	定時制	通信制	定時制	通信制	定時制	通信制
鳥取緑風	総合(午前)① (午後)① (夜間)①				総合③ (午前①・午後①・夜間①) 90人	普通科 約80人
倉吉東	普通(夜)①				普通(夜) 40人	
米子東	普通(夜)①				普通(夜) 30人	
米子白鳳	総合(午前)① (午後)①				総合③ (午前①・午後①) 60人	普通科 約80人

注) ○数字は1学年の学級数。アンダーラインは学級減。

【資料4】

県立高等学校の入学状況(H21～H23)

(単位:人)

学校名	学科	定員			H21			H22			H23		
		H21	H22	H23	入学者	不足数	充足率	入学者	不足数	充足率	入学者	不足数	充足率
鳥取東	普通	280	280	280	285	5	101.8%	283	3	101.1%	280	0	100.0%
	理数	40	40	40	40	0	100.0%	40	0	100.0%	40	0	100.0%
鳥取西	普通	320	320	320	323	3	100.9%	323	3	100.9%	327	7	102.2%
鳥取商業	商業	228	190	190	231	3	101.3%	193	3	101.6%	192	2	101.1%
鳥取工業	工業	152	152	152	153	1	100.7%	147	△ 5	96.7%	154	2	101.3%
	理数工学	38	38	38	38	0	100.0%	39	1	102.6%	39	1	102.6%
鳥取湖陵	農業	76	76	76	75	△ 1	98.7%	76	0	100.0%	77	1	101.3%
	工業	38	38	38	33	△ 5	86.8%	38	0	100.0%	31	△ 7	81.6%
	家庭	76	76	38	75	△ 1	98.7%	76	0	100.0%	38	0	100.0%
	情報	38	38	38	39	1	102.6%	38	0	100.0%	38	0	100.0%
青谷	総合	152	152	152	152	0	100.0%	150	△ 2	98.7%	105	△ 47	69.1%
岩美	普通	114	114	114	100	△ 14	87.7%	96	△ 18	84.2%	89	△ 25	78.1%
八頭	普通	320	320	280	327	7	102.2%	325	5	101.6%	283	3	101.1%
智頭農林	農業	80	80	80	77	△ 3	96.3%	69	△ 11	86.3%	52	△ 28	65.0%
倉吉東	普通	240	240	200	248	8	103.3%	240	0	100.0%	201	1	100.5%
倉吉西	普通	160	160	160	162	2	101.3%	160	0	100.0%	160	0	100.0%
倉吉農業	農業	152	152	114	108	△ 44	71.1%	122	△ 30	80.3%	81	△ 33	71.1%
倉吉総合産業	工業	76	76	76	79	3	103.9%	78	2	102.6%	76	0	100.0%
	商業	38	38	38	39	1	102.6%	39	1	102.6%	39	1	102.6%
	家庭	38	38	38	39	1	102.6%	39	1	102.6%	38	0	100.0%
	情報	38	38	38	38	0	100.0%	39	1	102.6%	37	△ 1	97.4%
鳥取中央育英	普通	160	160	160	163	3	101.9%	160	0	100.0%	162	2	101.3%
米子東	普通	320	320	320	320	0	100.0%	322	2	100.6%	323	3	100.9%
米子西	普通	320	320	320	319	△ 1	99.7%	322	2	100.6%	323	3	100.9%
米子	総合	152	152	152	152	0	100.0%	153	1	100.7%	152	0	100.0%
米子南	商業	114	114	114	115	1	100.9%	115	1	100.9%	114	0	100.0%
	家庭	38	38	38	38	0	100.0%	39	1	102.6%	39	1	102.6%
米子工業	工業	190	190	190	168	△ 22	88.4%	191	1	100.5%	188	△ 2	98.9%
境	普通	240	240	200	239	△ 1	99.6%	240	0	100.0%	201	1	100.5%
境港総合技術	水産	76	76	76	76	0	100.0%	78	2	102.6%	77	1	101.3%
	工業	76	76	76	76	0	100.0%	77	1	101.3%	76	0	100.0%
	商業	38	38		39	1	102.6%	38	0	100.0%			
	福祉	38	38	38	38	0	100.0%	38	0	100.0%	39	1	102.6%
日野	総合	114	114	114	77	△ 37	67.5%	64	△ 50	56.1%	51	△ 63	44.7%

[学校要覧より 5/1現在在籍数]

■ 県外の小規模でも活力ある高校の事例

高校名	課程・学科	定員	所在地
島根県立 隠岐島前 高等学校	全日制・普通科	40人	島根県隠岐郡海士町福井1403
	【学校の特徴】		
	現在全校生徒は106名で、その内県外生徒が12名在籍。少人数指導の授業、平日や長期休業中の補習、個別指導などにより大学進学を始めとする多様な進路希望に応えている。また、国公立大学などへの進学希望の実現を目指す特別進学コースと、将来地域を担うための総合的な実践力を養う地域創造コースの2コース制を新設。昨年度国公立大学へ7名の合格、レスリング部の16年連続県高校総体団体戦優勝、第1回観光甲子園での全国優勝ツアープランの実践など課外活動も活発に行われ文武両道で頑張っている。		
	【県外出身生徒のコメント】		
	(県外出身女子、現在第1学年在籍生徒のコメント) 中学時代は生徒会長として社会貢献活動に全力投球でしたが、人とのつながりがある島前地域で活動したいと思っここへ来ました。今は、全国から人が訪れる新たな観光企画の実現を目指し充実した日々を送っています。		
兵庫県立 千種 高等学校	全日制・普通科 中高一貫校	40人	兵庫県宍粟市千種町千種727-2
	【学校の特徴】		
	平成22年度から宍粟市立千種中学校と兵庫県下で初の「連携型中高一貫教育校」に改編された。各学校の母体を残しつつ、授業・行事での連携を許可している。 中学1年生から高校3年生までの異年齢集団による活動が行えることで、社会性や人間力も育成できる。		
	【特色あるコース】		
	<p>■チャレンジコース 英語、国語、数学、理科の学習を重視し、センター試験に対応できる学力の養成を図り、国公立大学合格を目指す</p> <p>■ベーシックコース 基礎的、基本的な内容の確実な習得を重視するとともに、様々な資格・技術の習得をとおして生涯学習の基礎を養う</p> <p>■アクティブコース 基礎的、基本的な内容の確実な習得を目指すとともに、多様な体験活動を通じて、自主性・社会性などの養成を図る</p>		
兵庫県立 千種 高等学校	【設置の経緯】		
	「県立高等学校教育改革第二次実施計画」(H20.2策定) ⇒「すべての学年が1学級となった学校は、地域と連携してその活性化方策を研究するとともに、(中略)連携型中高一貫教育校などの特色のある学校として存続するか、近隣校と統合するかを検討する。」		
	千種高校はH19年度に全ての学級が1学級となる →学校関係者をはじめ地域住民が委員となって組織する協議会において今後の在り方を協議 →H20年度末に、「千種中学校との交流を深め、連携型中高一貫教育校に改編することが望ましい」という方向性		
	【地域との連携】		
	地域に向けて積極的に教育活動をPR ・学校新聞を地域に配布、学校HPでの活動状況の紹介 →学校に対する地域の信頼は高まっており、文化祭や体育大会などの学校行事には多くの地域の方が来校され、市民の交流の場となっている(地域コミュニティの中核施設としての役割)		

【資料6】

【学級定員の推移】

学 科	年 度	S 4 8 ~	S 6 2 ~	H 4 ~	H 5 ~	H 6 ~	H 1 1 ~	H 1 7 ~ H 2 3
普通	鳥取県	42	45	44(40)	→	40	→	40(38)
	国の規準	45			→			→
商業・家庭	鳥取県	40					→	38
	国の規準	45			→	40		→
農業・工業 ・水産	鳥取県	38						→
	国の規準	40						→
その他	鳥取県	該当学科なし				40	→	38
	国の規準	該当学科なし				40		→

() は、一部の学校の学級編制規準

Ⅲ 答申骨子

平成24年度から平成30年度までの高等学校教育改革の概要

60年ぶりに改正された教育基本法に留意して、「個人の自己実現」と「社会の発展に寄与する人材」の二つを命題とした教育の実現をめざすこととし、
 ・「自らの目標を持ち、その実現に向かって主体的に生きていくことのできる力」
 ・「社会で求められる創造性や協調性、豊かな人間性」
 をいかにして育むかに留意し、提言

諮問事項1

社会が変化する中において「知」「徳」「体」の育成を大切にし、
 社会の要請に応えることができる魅力ある高等学校教育の在り方

諮問の背景：教育基本法第2条
 知・徳・体の調和のとれた発達
 (第1号)

生徒の人格の形成をめざすに当たっては、「知」「徳」「体」全般にわたる向上が必要であり、その際、自らの将来の職業や生活を見通して、進学や就職などのために必要な学力や、社会において自立して生きるために必要な力、現代社会をめぐる様々な課題を解決へと導く能力を身に付けることができるよう、社会の発展への寄与などのより高い目標を掲げての動機付けを行うことに留意すべき

<背景>

[生徒の現状と課題]

- 高校入試の得点分布の分散拡大
- 学習意欲が高く、進んで学習する生徒は半数に満たず、およそ半数の生徒が家庭学習をほとんどしない状況
- 不登校生徒の増加 ○全般的に低い規範意識 ○耐える力の不足
- 毎日長時間、携帯電話やゲーム機に向かい合う生徒の増加 ○体力の低下 ○性に関する意識が開放的 等

[本県教育を取り巻く社会の現状と課題]

- 全国的に経済が低迷し、非常に厳しい雇用情勢、労働環境になっているが、本県においては、これらに加え、さらなる人口減少や過疎化の進行も懸念
 → 地域を挙げて育てた人材が地域を支え、次の時代の人材を育むという人材育成の循環社会を構築するため、ふるさとを愛し、より良い社会の形成に向けて主体的に行動する人材を育成することが重要
- 本県のみならず世界規模で、変化が激しく、未知の課題に試行錯誤しながらも対応することが求められる複雑で難しい社会の到来
 → 基礎的・基本的な知識・技能と、これらを活用して、課題を見出し、解決することができる思考力・判断力・表現力等をいわば車の両輪として相互に関連させながら伸ばすことが重要

<重点取組事項1>

自らの将来の職業や生活を見通して、進学や就職などのために必要な学力や、社会において自立して生きるために必要とされる力を進んで身に付けさせる取組の充実

- 地域社会を教材にして行う探究活動
- 大学や企業活動等を見学・体験 など

<重点取組事項2>

現代社会をめぐる様々な課題を解決へと導く能力を身に付けさせる取組の充実

- 家庭での学習を充実させる取組
- 教科の指導の中における研究・調査や観察・実験、レポートの作成、論述といった知識・技能を活用する学習活動
- 特別活動や総合的な学習の時間等における教科等を横断した課題解決的な学習や探究的な活動、体験学習といった知識を深化させる経験を重ねる取組 など

諮問事項2

生徒減少期における今後の高等学校の在り方

諮問の背景：中学卒業生の減
 H23：5,591人
 H30：5,286人(▲305人)

生徒減少期をきめ細かな指導ができる好機ととらえ、現在の学校数及び配置は維持し、各学校の実情に応じて学級定員を減じて、多様な学科を維持すべき

<背景>

- 現在の入学生徒の状況を鑑みると、自らの適性に対する理解が不十分であったり、明確な進路目標を持っていない実態があり、また、学力や学習意欲の幅が拡大傾向にあることから、多様な生徒の個性に対応する必要性がさらに増大
- 先行き不透明な社会情勢にあって、社会の変化に弾力的に対応できる人材を確保するため、多様な学科を維持する必要性が増大
- 前回の高校再編(H10～H17)では、生徒一人一人の個性に対応し、生徒がより充実した学校生活を送れるような、魅力と活力に満ちた学校づくりをめざしたところ
 → 生徒の学校生活への満足度も高まり、中途退学率も減少(基本的な方向性は誤っていない)
 ただし、生徒の学校選択の実態は、自らの適性を理解し、将来の職業や生活を見通したものというよりは、単に自らの学力により選択している傾向が強い
 ・ ・ ・これに対し、各学校は、裁量予算制度と学校評価制度の活用により、生徒の実情に応じた学校づくりをさらに充実させつつ対応

<学校数及び配置>

県全体の活力や地域的なバランス、また、時代や社会の変化に対応するための資質や人材を育成する観点から、学校数及び配置は、現状を維持

<学校規模>

1学年当たり4学級から8学級程度の規模が適当であるが、生徒減少期にあっては、生徒や地域の状況も踏まえ、より学校の特色を打ち出していく観点から、1学年4学級を下回る場合においても当面は学校を維持

<公私比率>

県立、私立の募集定員の比率については、本来、各学校が魅力ある学校づくりを競い合うことにより中学生の進路希望が自ずと決まってくるものであり、当面は現状の県立80パーセント、私立20パーセントを目途としながら、生徒や保護者の学校選択の状況を踏まえて弾力的に対応

<普通科系学科と職業系学科等のバランス>

普通学科、専門学科、総合学科の募集定員の割合は、生徒の状況を勘案しつつ、保護者や産業界をはじめとした県民ニーズを重視するとともに、各学校や学科の特色を考慮して設定する必要がある。

今後の県立高等学校の在り方に関する基本方針 (平成25年度～平成30年度)の概要

1 検討の背景

平成23年度末の中学校卒業生数は約5,600人であるが、今後の生徒数の減少により、平成29年度末における中学校卒業生見込数は全県で約5,200人となり、今後、中学校卒業生数が400人程度減少することが想定される。

2 県立高等学校の在り方

(1) 基本的な考え方

○生徒の、自らの目標に向かって主体的に生きていくことのできる力や豊かな人間性の育成を図るための教育を推進

○活力や魅力のある高等学校づくりや産業構造の変化等に伴い、社会や生徒、保護者等のニーズに応えるための学科・コース等を設置

(2) 学校・学級の規模

学校の規模	○平成21年2月の答申中、「1学年4学級を下回る場合においても当面は学校を維持する」という考え方は基本的には尊重 ⇒中山間地域等の学校で生徒数の減少が顕著な場合等については、その地域の状況等に応じ、3学級未満にする ⇒原則として、計画期間中の学校の再編成は実施しない
今後に必要な学級減	○平成30年度までに8学級程度の学級減が必要 ○具体的な学級減については、各地域の中学校卒業生数の状況、近年の入学者数、地域の産業の実情等を総合的に勘案しながら決定 ○入学者が募集定員を満たしていない状況が続く学校への対応を検討

(3) 特色ある学科やコース

環境エネルギー分野	スマートグリッド社会に対応できる電気、制御、化学の知識を持った人材の育成を図るための学科を編成
福祉の分野	高校生の福祉への関心を高め、将来的に福祉の職場で活躍する人材育成を図るため、幅広い福祉に対応するマインドを醸成するようなコースなどを編成
文化芸術の分野	伝統や文化の維持・発展や新たな文化芸術を創造する人材を育成するため、まんが等を含む各種メディア芸術等、文化芸術分野を学ぶようなコースなどを編成

3 地域と連携した教育の推進

中山間地域の学校など、今後の生徒数減少に伴う学校の小規模化に対して、他県の事例も参考にしながら、魅力や特色ある学校づくりの検討を行い、学校や地域の活性化につなげていく。 [参考：日野高校の在り方を考える協議会の設置（平成23年10月）]

4 平成31年度以降の県立高等学校の在り方の検討に向けて

平成31年度以降も生徒数が大幅に減少していく中であって、学校がより小規模化していくことが予想されることから、学科やコース等の改編等を含めた学校の再編成を行うことも念頭に置きながら検討

平成31年度以降の県立高等学校の在り方について、来年度以降に県教育審議会に諮問し、答申をいただく予定